

## 映像事業

## KAVC CINEMA 「ヨーゼフ・ボイスは挑発する」

第二次世界大戦後のドイツ。美術館を飛び出し革命を叫んだ芸術家、ヨーゼフ・ボイス。  
世界中を攪乱し「芸術」を変えた男のドキュメンタリー。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、当センターのご利用および企画運営にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、KAVC CINEMA にて「ヨーゼフ・ボイスは挑発する」を上映する運びとなりました。

ヨーゼフ・ボイスは、戦後ドイツで「芸術概念の拡張」による革命を叫んだ芸術家です。腕に抱いた死んだ野ウサギを絵画に触れさせその説明を行う「死んだうさぎに絵を説明する方法」(1965年)、アメリカ先住民の聖なる動物“コヨーテ”と共にNYのギャラリーに籠り1週間暮らす「私はアメリカが好き、アメリカも私が好き」(1974年)などのパフォーマンスやテレビの討論番組で繰り広げた評論家たちとの挑発的な議論から、異端のアーティストとして扱われました。自ら「芸術概念の拡張」を体現するため、教授をつとめるデュッセルドルフ芸術アカデミーにて「基本的人権に反する入学許可数の制限は、公平に解決すべき」と、学生らとともにアカデミー事務局を占拠。その後、エコロジー、反原発・反核、フェミニズムを背景に結成された政党「緑の党」に参加。ボイスの試みは、現実社会に積極的に関わり人々との対話などを通して社会変革をもたらそうとする「ソーシャリー・エンゲージド・アート」の登場など、現在も美術界に影響を与え続けています。第二次世界大戦に参加したボイスは、戦争のトラウマから重い鬱病を発症させますが、回復後、センセーショナルなパフォーマンスで世界中を騒がせました。それらの創造の根幹には、自身の傷、そして社会の傷への眼差しがありました。膨大な数の資料映像と新たに撮影された関係者へのインタビュー映像で創られた、ボイスの芸術と知られざる”傷”を見つめる本作を通し、今なお生々しく力強いボイスの言葉から私たちは何を受け取るのでしょうか。時を超え、再び私たちを挑発するアーティストの姿をぜひご覧ください。

つきましては、ぜひ貴社媒体にて本作品をご紹介頂きたく、情報掲載のご協力を頂きますようお願い申し上げます。

何とぞ宜しくお願い申し上げます。

敬具

「ヨーゼフ・ボイスは挑発する」

(2017年/ドイツ/107分) 配給：アップリンク

監督：アンドレス・ファイエル

出演：ヨーゼフ・ボイス ほか

上映期間：4/13(土)～4/26(金)

4/13(土) 18:40、14(日) 17:25

4/15(月)～19(金) 16:30

4/20(土) 17:55、4/21(日) 18:10

4/22(月)～26日(金) 17:25

料金：一般1700円、学生1400円、シニア1100円

※かぶっクラブ会員割引、障がい者割引適用あり

●関連トークイベント：

4/14(日)17:25の回上映終了後、福元崇志氏(国立国際美術館 研究員)をお招きし、トークイベントを行います。作品と合わせてぜひご参加ください。



(c) 2017 zero one film, Terz Film

会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター（担当 大泉）

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14 TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356

1/3